

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2023年12月27日

事業所名 fun

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	68%	18%	活動により、机や椅子を移動させ活動スペースを広げている。	その日の利用者や人数によっては、狭く感じる日もある。
	2	職員の配置数は適切である	62%	25%	改善されてきている	活動内容によっては足りないと感じることがあるため、その都度配置について考慮していきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	87%	6%	段差がなく床はフラットになっている。	手すりがないため今後設置について検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	93%	0%	参画することにより、良く分かるようになった。	ホワイトボード、日誌等で目標・気を付ける点などを毎日書いて共有している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	モニタリング時に保護者様から意見を聞くようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	93%	0%		ホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43%	25%		第三者は設置していない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	新人でも参加できることが良い。	内部の研修体制の構築をすることで事業所の方針を普及し理解を促進させていく。外部への研修にも積極的に参加することで、更なる資質の向上に努める。
適切	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	81%	0%		利用者さんに対するアセスメントを細かくしていく必要がある。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	94%	6%		単位ごと(全員で)考えられるように支援会議とは別で会議を設けていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	94%	6%	同じ内容でも、細かい部分に変更を加えて行っている。	固定化しないように設定しているがねらいを更に詳細に設定していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	93%	10%		設定はしているが、長期休暇前後の会議は特に必要性を感じる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		

切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	94%	6%		職員間の声かけ、情報共有を皆が意識すると良い。 ほぼ実施できているが、必ずとはなっていないため共有方法を考えていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	87%	6%	非常勤も勤務時間を確保したことで、その日の反省が出来るようになった。	常勤だけでなく非常勤を交えての振り返りが難しいため毎日の日誌をつけている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	非常勤も記録する時間を取れるようになった。 気づいたときに記録しやすいようになっている。	記録を確実にとることで職員間の共有ができ、支援の改善につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	68%	6%		ガイドラインを周知する時間を確保する。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		児発管だけでなく、今後は保育士・指導員等も参加できるようにしていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	常に学校とは情報共有し連携している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	37%	6%		医療的ケア児の受け入れは現在ない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	93%	0%	相談支援を通して連携に努めている。	今後は園との連携を強化していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	93%	0%		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	87%	0%	連携・助言はあるが、研修はない。	研修機会があれば参画する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	43%	50%	季節行事にて、交流を持つ機会があった。	感染症に十分注意して交流機会を企画・検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	68%	0%	2ヶ月に1度参加している。	今後も参画していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		送迎時、又は電話等で伝えているが、職員全体の周知も必要。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	56%	25%		療育参観や親子イベントなど、直接支援の様子や方法を見て、体験してもらえる機会を設けていく。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	93%	0%	契約時に行っている。	今後も保護者様から相談、確認がしやすい関係づくりをしていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談員も巻き込みながら行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	25%	季節行事を通して交流機会は設けている。	以前行っていたおしゃべり会のような企画を来年度検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		苦情件数 0件
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	88%	12%	ホームページやインスタグラム、お知らせ等で発信している。 外出をした際は写真を渡すようにしている。	会報は以前はあったが、現在は無い。 インスタ、ホームページだけでなく、年に数回あっても良いと思う。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	近隣の方も招待し、季節行事を開催している。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	75%	18%		保護者や職員(特に新規職員)への周知は低い。 法人の委員会を中心として、安全対策を徹底すると共にマニュアルの周知方法を検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		法人全体で年2回行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	94%	6%		法人の委員会を中心として、今後研修を行っていききたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	94%	6%		身体拘束を必要とする利用者さんは現在いないが、必要であれば委員会を中心に議論し必ず計画書に記載、保護者様に同意を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	お弁当・おやつのアレルギー対応を行っている。	指示書はないが、保護者様に確認をとりながら対応している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	87%	6%	会議にて共有している。(口頭報告のみ)	会議などで周知はしているが、事例集としてはない。今後事例集を全職員に配布予定。	